

# 音楽情報科学研究会のページ

## 第4回 音楽情報科学研究会のお知らせ

日時： 1993年12月10日(金) 13:30 — 17:00

会場： 工学院大学 28階 第4会議室

住所： 東京都新宿区西新宿1-24-2, JR新宿(西口)下車 徒歩約10分 Tel.(03) 3342-1211

議題：

- ・一般発表(1) MIDI制御のための分散協調システム — 遠隔地間の合奏を目指して —  
後藤真孝(早大)、橋本裕司(慶大)

概要： ネットワーク上の複数のユーザーが電子楽器をMIDI制御するための分散協調システムについて。

- ・一般発表(2)(仮題) 尚美学園におけるコンピュータ音楽教育システム 古屋国忠(尚美学園)  
・自由討論

題目： 音楽情報処理の研究目標

司会： 鈴木孝(東京高専)

## SIGMUS 第2回 研究発表会 質疑記録(1993, 6/12)

(東洋音楽会関西支部 第164回定例研究会と合同)

記録： 玉城謙一(大阪大学)

- (1) 中川隆、鈴木明、杉田繁治(国立民族学博物館)  
国立民族学博物館における演奏データベース

Q: 藤田(産業能率大学) 演奏を検索するときに、何を手掛かりにしているか？

A: 曲のタイトル、演奏者がキーワードになっている。

Q: 横田(神戸大) 将来的に検索の対象として、演奏の類型候補、律音階、演奏楽器などが使えるようになるか？

A: 検索項目に対し最初に分析を行い、分析をおこなった項目で検索することを考えている。その項目に関して最初に分析をおこなっていれば、検索可能である。最初に分析を行っていない項目を手掛かりにして検索を行なうことは考えていない。

- (2) 矢向正人(九州芸術工科大学)

長唄において三味線の音色はどのように弾き分けられているか？—小十郎譜を例にとった場合—

Q: 坪井(浜松職業能力開発短期大学) 同じジャンルで、他の流派との比較を行なっているが、同じ流派で、他のジャンルとの比較はしないのか。

A: 同じジャンルで、他の流派との比較を行なってから行なうつもりである。

Q: 月溪(東洋音楽学会) 音楽構造の分析、奏法の位置づけをみていくうえで、特殊技法を目安に扱われている理由は？

A: 旋律パターンなどの他の要素も研究を行なっているが、それだけでは片手落ちである。それで今回、特殊技法に絞って発表した。

- Q: 特殊技法は、楽譜の中に記述されているから客観的に取り扱いので、解析のキーワードとしては研究しやすいと考えられたのか？
- A: 流派によっては記述されていないものもあるが、小十郎譜では特殊技法が記述されているので、研究しやすいというメリットもあるので利用した。
- Q: 渡辺（東洋音楽学会）“すくい”、“はじき”などを、曲の中での件数で述べていたが、曲の構成部分において、それらはどのくらいの割合で反映されているのか？
- A: 曲中での割合が少なくとも、曲の中で重要な位置を占めるものもあるので、一概に割合で表現してしまうのには難がある。

(3) 志村哲（大阪芸術大学）、坪井邦明（浜松職業能力開発短期大学）、松島俊明（東邦大学）  
日本音楽の情報処理 — 尺八の場合 —

- Q: 櫻井（東洋音楽学会）レジメの18頁に視点が書かれてあるが、具体的にどのような所に考慮しているのか？
- A: (志村) 例えば、鹿の鳴き声を模倣した部分などは、どのように計算機で処理したらよいか思案中だが、将来的には尺八曲をなんとかしてデータベース化にもっていく予定である。
- Q: 田口（甲南大学）五線譜から尺八の楽譜に変換を行なっているが、五線譜にのっていないような奏法なども変換しているのか？
- A: (坪井) それに関しては検討中で、現在は五線譜にのっている情報だけを変換することをおこなっている。
- Q: 福田（NEC関西）曲想によっては、同じ音階でも音色が違うことがあるが、その点をどのように考えられているのか？
- A: (坪井) 当面は、出版されているような尺八奏譜をつくることが目的で、今、述べられたようなことは検討中です。
- A: (志村) 演奏表現の問題や個人的な趣味の問題もあるが、手本曲に関しては書かれてあるような演奏法を適用する。

### 前回研究報告の正誤表

矢向正人(九州芸工大): 長唄において三味線の音色はどのように弾き分けられているか?  
情報処理学会研究報告 93-MUS-2, 1993年6月12日.

誤	正
11頁2行目 a h c cis d …	→ a h c cis d …
11頁46行目 はじかれるやすい	→ はじかれやすい
15頁19行目 表1	→ 表2
15頁31行目 「五郎」[430-432]	→ 「吉原雀」[65-66]
15頁33行目 上向進行	→ 上行進行
16頁6行目 「花見踊」[373-379]	→ 「鶴亀」[88]

### 三味線旋律事典刊行の会のご紹介

三味線旋律事典刊行の会は、コンピュータの活用により、現存する三味線音楽のデータベースの作成と、旋律パターンを分類した「旋律事典」の刊行を目的とする会です。音情研からの参加者を求めていきます。詳しい内容については下記までお問い合わせください。

矢向正人 九州芸術工科大学音響設計学科 〒815 福岡市南区塩原4-9-1

Tel 092-553-4549 (直通) Fax 092-582-6782